

## II. 魚類以外の生き物

この浜で確認した魚類以外の生き物について次に述べます。海産動物と呼ばれる海の小動物です。甲殻類(エビ・カニの

仲間)、貝類(二枚貝・巻き貝)、腔腸類(イソギンチャクなど)が主なものです。

### A 節足動物 ① カニ類

#### ① イソガニ 十脚目イワガニ科

芦屋の海岸の磯には以前から多く見られるカニで、南芦屋浜でも見られています。最近数が減ってきているようです。5月の観察会でも採集できましたが多くはありませんでした。はさみ脚は大きく左右同じ大きさです。額は幅広く、甲には黄緑色

のまだら模様があります。幼いカニも成体とほぼ同じ色彩です。



#### ② ヒライソガニ イワガニ科

海浜にもっとも普通に見られるカニで、潮間帯の石の下などに多く見られます。南芦屋浜の磯でも観察会のときにたくさん見られました。甲の色彩には個体変異が多く、特に幼ガニでは白色の固体もありま

す。雄のはさみ脚は雌より大きいです。



#### ③ ケフサイソガニ? イワガニ科

甲幅約3cm、イソガニに似ていますが、体色が異なり本種は暗緑褐色、淡紫赤色などが入り組んだ模様をつくります。成長した雄は、はさみ脚の指の根元に軟毛が房状に生えますが、幼ガニや雌にはありません。同定にはやや不明瞭な点が残る

ので?マークを付けました。磯の岩の間で捕らえました。



#### ④ ガザミ ワタリガニ科

生体ではありませんが、岩礁地帯端の砂浜に打ち上げられていた死んだ個体を1つ採集し、確認しました。恐らく内湾の海域あたりに生息していたものが、遺体

となって打ち上げられたものと思われるそうです。芦屋川河



口の芦屋浜でも何度か打ち上げられた遺体も見えていますので、芦屋沖の海域の沖

で生息しているのでしょうか。

#### ⑤ イシガニ ワタリガニ科

7月の観察会で岩礁の間にいるのを捕らえました。ガザミに似ていますが甲の前側縁の最後の歯は長く伸びません。青緑色または暗青色で食用にもなります。額に尖った歯、前側縁には6個の明瞭な鋸歯が並びます。捕らえようとすると大きな

はさみ脚をあげて威嚇してきます。甲幅8cm程。



#### ⑥ チチュウカイミドリガニ ワタリガニ科

イシガニによく似ていますが、遊泳脚にオール状の部分がないのが特徴です。前種のカザミと比較して下さい。その名のように地中海原産の外来種で、日本には1984年に東京湾で発見され、大阪湾では96年にはじめて見つかりました。阪神間では99年頃から急速に増え始めています。この南芦屋浜でも、2回の観察会で採

集されたカニは殆ど本種でした。内湾の海藻の生えた岩礁域のタイドプールや砂泥底の部分などに生育しています。



### A 節足動物 ② エビ類

#### ① テッポウエビ テッポウエビ科

はさみ脚を前に突き出した形で全長7cmほどのエビです。藻場の上に棲んでおり、片方のはさみ脚は大形で重厚です。これを急に閉じて「パチン」と大きな音を立てるのでこの名があります。潮間帯の砂泥底やアマモ

帯に穴を掘って棲んでいます。南芦屋浜では岩礁付近で2尾ほど捕れました。



#### ② アシナガエビモドキ モエビ科

この浜の岩礁の間にある藻の生えた潮だまりをたも網ですくうと、藻の間にいたこのエビがたくさん捕まりました。生活場所によって体色変化が多く、5月に採集したものは、茶褐色で卵を多く抱えてい

るものが見られました。



③スジエビモドキ テナガエビ科

小型の透明なエビで、体の黒色模様は腹の縁部にだけあります。この浜の砂地の潮だまりや岩の間などで、たも網で採集し、確認しました。採集されたものは3cmほどのものが多かったですが、成長すると4cmほどになります。



A 節足動物 ③ それ以外の仲間

①ホンヤドカリ ホンヤドカリ科

岩礁地帯の転石の下や潮だまりの砂の間などをはい回っているのはほとんど本種でした。濃緑色の体で歩脚の先端が白いのが特徴です。南芦屋浜でも多数はい回っていました。危険を察するとすぐ貝の中に引っ込みます。ヤドカリの仲間には他にも種類がいると思われるか同定が難しく、今後の課題です。



②イワフジツボ イワフジツボ科

この浜の岩礁や岸壁の表面には、無数のフジツボが群生しています。それらはすべて本種です。付いているのは高潮線付近（満潮時海水がかかる）で大きくても直径8mmほどの小型種です。



③フナムシ フナムシ科

これも5月、7月ともに岩の上などをはい回っているのが見られました。5月の時はまだ体長も2cm前後でしたが、7月の時は体長6cmほどの生態に成長していました。



B 軟体動物 ⑦ 巻き貝類

①イシダタミ ニシキウスガイ科

南芦屋浜の岩礁地帯の岩の表面に付き、ゆっくり這っていますが、数はそう多くありません。殻高2cm、殻径1.8cm程の巻き貝で、殻の表面に「石だたみ」のような模様があるのでこの名があります。岩に生えた藻類などを餌にして成長します。



②タマキビ タマキビ科

殻高1cm、殻径も1cmほどの小さな巻き貝です。海の貝なのに海水を嫌い、いつも潮間帯上の飛沫帯の岩場に暮らしており、海水に浸かるとすぐ這い上がる性質があります。乾燥に強く、海藻のない乾いた場所でも数週間生きることが出来ます。集団で岩に付き藻類などを餌にしています。南芦屋浜でも多数群集しています。



③イボニシ アッキガイ科

殻高3cm、殻径は2cmほどで、潮間帯の岩場に普通に見られる巻き貝です。南芦屋浜に岩場や石の下にも普通に見られます。肉食性でマガキやムラサキガイの殻に直径1mm程の丸い穴を開けて中身を食べます。殻の表面にいぼ状の突起があるのでこの名があります。



B 軟体動物 ① 二枚貝類

①マガキ イタボガキ科

食用として広く養殖されていますが、野生のものは内湾の岩礁、防波堤、杭などに付着しています。南芦屋浜の岩礁の表面にも多く付いているのが見られます。殻の形は一定していません。すみ場所、地域によっていくつかの型（タイプ）が見られます。



②アサリ マルスダレガイ科

南芦屋浜では数年前から大発生しており、今や「潮干狩り」のメッカになりつつあります。湾のようにかこまれた砂浜地帯には特に多く、岩礁地帯の砂の中にも生息しています。砂を10cm程も掘り下げれば大小の個体が見つかります。殻表面の模様はさまざまです。食用貝なので春先から「潮干狩り」の対象になります。ただ、時期によって「貝毒」を持っており食すると中毒を起すことがありますので、保健所などの情報をよく知っておく必要があります。砂の中のプランクトンや微小な藻類を餌に生活しています。



以上は生きてまま確認された貝ですが、砂浜の海岸には「貝殻：かいがら」と

して打ち上げられた貝がたくさん見られます。生きて確認できなくても貝殻があればこの付近の海に生息していると考えられます。

すので、貝殻で見つかったものを下に示しておきます。

③ムラサキガイ イガイ科

船舶について世界を移動。ムール貝の別名があり食用になります。

④ミドリイガイ イガイ科

熱帯アジア原産の外来種。数年前から幼になった、緑色の美しい貝。

⑤カガミガイ マルスダレガイ科

白い丸い形からモチガイとも呼ばれます。食用になり美味です。

⑥クチバガイ チドリマスオ科

クリーム地に薄い皮をかぶった貝。皮が朽ち葉色なのでこの名があります。

⑦サルボウガイ フネガイ科

殻長5cmほど、殻の表面に32本ほどの筋があります。別名モガイ(藻貝)ともいい、肉は食用になります。



ムラサキガイ ミドリイガイ カガミガイ クチバガイ サルボウガイ

B 軟体動物 ⑥ ウミウシ類

①ウミウシの1種 ウミウシ科

浅い「潮だまり」でウミウシの仲間が見つかりました。褐色の表面に棘状の突起があるもので、ゆっくりと這うように動きます。図鑑で調べましたがきちんと当てはまるものが無く、今のところ種名不詳です。

ヒカリウミウシに比較的よく似ていますが、はっきり分かりません。



C 刺胞動物 ⑦ イソギンチャク類

①ヨロイソギンチャク ウメボシイソギンチャク科

体壁の直径は3~7cm、やや大形のイソギンチャクです。触手は96本、体壁は吸着いぼで覆われ、そのいぼで貝殻や小石に付着させているので縮むと体壁は殆ど見えません。ここの海岸ではやや深い

岩礁のところに沈んでいた小石の上に付いていました。



②タテジマイソギンチャク タテジマイソギンチャク科

岩礁地帯の岩の表面に多数附着しており、引き潮の時は球形に丸まっていますが、潮が満ちて水中に沈むと触手を伸ばし広がります。触手を伸ばしたときの径は4cmほど、体壁の縞は12本の橙色のもの、24本の黄色の

もの、それらを併せ持ったものなど4タイプがあります。触手は約100本。体の一部がちぎれてもその部分から増殖します。



C 刺胞動物 ① クラゲ類

①アカクラゲ オキクラゲ科

傘の表面に放射状に16本の赤褐色の条紋があるのでアカクラゲの名があります。傘径は9~12cm、触手は40~56本、触手の刺胞毒は強く、刺されると危険です。乾燥した触手の粉末を鼻から吸い込むと、激しいくしゃみを起こさせるのでハ

クションクラゲとも呼ばれます。春から初夏に多く、南芦屋浜では浜に打ち上げられたものが多く見られました。



②ミズクラゲ ミズクラゲ科

日本近海でもっとも普通に見られるクラゲで、透明な体の内部の4つの生殖腺が目立つため、ヨツメクラゲとも呼ばれます。体の95%は水であるといわれています。冬から夏にかけて出現し、南芦屋浜の砂浜にも打ち上げられた姿がよく見られ

ます。普通、傘径10~17cmですが最大のものでは30cmにもなる個体もあります。発電所の海水取水口に大量に吸い寄せられ、被害を与えることがあります。



▶ III. 海生植物(海藻類)

波打ち際やタイドプールを探すと色々な種類の海藻が見つかりました。これらも一

緒にまとめておきましょう。

①アナアオサ 緑藻植物アオサ科

体は膜状で横の大きく広がっています。大きなものは30平方センチメートルにもなり、海面を漂いながら光合成します。大きくなるにつれ体に大小の穴がたくさん

空くのでこの名があります。南芦屋浜の磯の海面や「潮だまり」に多数見られます。



②サキブトミル 緑藻植物ミル科

体は樹枝状に枝分かれしています。円柱状で正しく2又または3又に分枝します。高さ10~17cm、太さ3~5mm、一見ミルに似ていますが、枝の先はふくれて棍棒状になっ

ています。この浜の「潮だまり」の石に付いている小さいものを見つけ確認しました。



③ワカメ 褐藻植物コンブ目チガイソ科

春に下見に行ったとき、広い砂浜に打ち上げられていたものを確認しました。また、今回の調査でも流れ着いた根に近い部分も見つかりました。恐らく沖合の深い

ところに生えていたものが千切れて流れ着いたものと思われる。



④ホンダワラ 褐藻植物ホンダワラ科

岩礁地帯の「潮だまり」の深みや岩礁帯の沖合い付近に多数繁茂しています。投網を打つと網一杯にかかって引き上げられました。根は仮盤状で、1本の茎から長い枝をたくさん出しています。茎は四角柱状で、所々に突起があります。茎は高さ

(長さ)1m以上、ときには数mにもなります。葉はへら状、楕円形または笹状です。所々に小米粒状の紡錘形の生殖器官があり、つぶすとプッチンと音がします。



まとめにかえて

以上、南芦屋浜の生き物調査の現在までに明らかになったこの生物相について述べてきました。この実態調査を踏まえていくつかのことが推定されます。その一つは、この人工海岸が形成されてからほぼ10年の中でかなりの海生生物が棲みつき始めていること。生態学的には、この海岸のいわゆる人工岩礁地帯の磯的環境と、防潮堤外海の外洋とはかなり自然環境がことなり、10月30日の刺し網漁調査の結果も踏まえると、生息する魚種の違いなども明らかになりました。一方、この岩礁磯海岸と防潮堤外海とのつながりもその魚種や幼魚、成魚の成長段階の違いから、人工磯が多く

の魚の稚魚、幼魚の比較的安全な生育場所を保証しているらしいこと、それを土台として成長した魚が外界に出て回遊しながら沿岸域の生態系を造り上げているらしいことなどがおぼろげながら見えてきました。その意味では、この人工海岸が芦屋沖の魚相の生産源として一定の役割を果たしているらしいことも分かってきました。

とはいうものの、まだまだ不十分な調査の域は出ておらず、今後も継続して明らかにしていかなければならない課題も多くあります。今回の調査を踏まえてさらなる調査を発展する必要があることを述べ、今回の調査の報告をひとまず締め切りたいと考えます。

南芦屋浜周辺に飛来する野鳥調査

— 南芦屋浜周辺の水鳥を中心とした年間の野鳥について確認 —

▶ はじめに

海浜という環境は野鳥にとっても重要な生活環境であることはいうまでもありません。そこで第6期芦屋市環境づくり推進会議の主要テーマ「南芦屋浜の人工海岸の自然環境の実態を明らかにする」という取り組みの一環としてこの人工海岸付近に飛来する野鳥の調査もとり組んできました。人工海岸は、創設当時より冬期には

多くのカモ類、シギ類などを中心に冬鳥といわれる北国からの渡り鳥が多く飛来を始めていましたが、その本格的な調査はまだ公式にはなされていません。そこで今回は委員だけではありますが、現在この浜に飛来する冬鳥を軸に海浜の鳥について調査を致しました。

▶ 1. 南芦屋浜の冬の野鳥

▲ カモの仲間 (ガンカモ科)

潮芦屋ビーチでも、最も多く目につくのはカモ類です。海岸近くの岩場の間の水

域を泳いでいるものもあれば、沖合の海に浮かんでいるものもあります。

食性とそれに伴う生態 ⑦ 草食性のカモ類

多くのカモはこのグループに属していません。このカモの習性は、水に完全に潜らないことです。頭を水中に入れても尾は必ず出しています。頭だけを水中に入れて、水際の草の葉や実(種子)、海藻などを食

べます。また、水上に浮いているときは、水中に沈んでいる部分が浅いのが特長です。南芦屋浜で見られるものは、次のカモ類です。

▶ ①ヒドリガモ ガンカモ科

芦屋市内で一番多く見られるカモで、ここ南芦屋浜でも、岩場の間の海域でもっとも普通に見られます。雄は白っぽい灰色で首は赤褐色、額から頭頂にかけて黄白色、胸はぶどう褐色と目立った特徴を持ってい

ます。雌は他のカモと同様地味ですが、他のカモより褐

